

令和8年度 製品化・事業化支援事業
製品化支援事業申込書 兼 事業計画書

令和 8 年 ○ 月 ○ 日

地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 理事長 殿

企業名 株式会社○○○○工業代表者 代表取締役 ○川 ○夫 印連絡担当者 生産部長 ○山 ○男〒 243-0000所在地 海老名市…………… 0 - 0 - 0TEL 046-000-0000 FAX 046-000-0000E-mail ………@…….co.jp

応募に当たっては、事前に当所職員と技術内容について相談してください。
自社で開発する内容と開発課題解決に必要な当所の試験内容を具体的に記載する必要があります。

1 事業計画の概要

(1) テーマ名・要約説明

テーマ名、新規又は継続の () 欄に○印、要約説明を記載願います。
なお、採択された場合、テーマ名と企業名は公表されます。簡潔に記載してください。

テーマ	○○技術を利用した△△商品の開発及び商品化	新規 (○) ・継続 ()
要約説明	従来の△△△△は××××技術によるものが主流であるが、当社の技術では++++を応用するものであり、従来の□□□□といった問題を解決するものであり、かつ、○○○○○にも貢献する社会的にも意義のある事業である。	

(2) 申込区分

支援を希望する申込区分の希望欄へ「○」を記入して下さい。(1つのみ)
A又はBを選んだ方のみ、「申込区分の変更の可否」に係る質問にお答えください。

【申込区分】

	申 込 区 分	希望	申込区分の変更の可否
A	ドラフトチャンバー付きの製品開発室の使用 (今回募集なし)		
B	ドラフトチャンバーの無い製品開発室の使用 (*)	○	不可
C	製品開発室を使用せず、通所で支援		

* 「B ドラフトチャンバーの無い製品開発室」では、原則的に化学物質の使用はできません。

(様式 1)

2 申請者の概要

(1) 会社概要

下記の内容に関係する資料を添付している場合は、その旨記載して下さい。

【創業年月日】 平成〇〇年 4 月 1 日

【資本金】 10,000 千円

【常用従業員数】 50 人

【仕入先（仕入れ上位 3 社）】

1. ○○○○ 2. ×××× 3. △△△△

【得意先（売上上位 3 社）】 (%) は全体に占める売上割合を記入

1. △△△△ (△△%) 2. ○○○○ (○○%) 3. ×××× (××%)

【主要製品 又は 主要業務】

主に○○○○機器、××××装置等の設計、製作

【保有している主な研究開発用の設備・装置（・商品名）】

○○○○機 ○台

△△△△マシン △台

□□□□装置 □台

【沿革】

平成〇〇年 海老名市…… 0-0-0 に株式会社○○○○工業を設立

××××機器製造会社として、○川○夫が設立

平成〇〇年 独自製品として初の△△△△機器を開発、販売開始

令和〇〇年 □□□大学××研究室と連携し、○○○○に係る△△△△技術の研究を開始

令和〇〇年 ○○○○に係る△△△△技術を応用した××××装置の製品化完了

令和〇〇年 □□□□展示会へ出展

【直近 2 期の経営実績（状況）と今期の見込み】

区 分	前々期	前期	今期（見込み）
売上高（千円）	245,080	257,010	271,200
経常利益（千円）	2,250	7,405	8,858
経営実績に係る説明	為替変動の影響が尾を引き、売上高は前期比△20%になった。 ……………。	××××に関する売上が伸びず、また、□□□□に係る原材料費が高騰し、……………となった。	○○○○に係る売上増が見込めると共に、コスト削減に努めた結果として、……………を見込む。

(2) 過去の主な履歴

研究開発を行う主担当者の簡単な略歴や過去の製品開発事例等を、差し支えない範囲で記載して下さい。
また、過去に表彰や補助金を受けたことがある場合は、その旨記載して下さい。

【研究開発の主な担当者の略歴、過去に開発に携わった技術・製品 等】

主任担当者 ○○ ○○

業務履歴 〇〇年〇〇月 ××大学卒業 ××××を専攻

〇〇年〇〇月 △△研究所入所 〇年間にわたり△△△△の研究に従事

〇〇年〇〇月 ㈱○○○○工業に入社 主に○○に係る研究開発に携わる

【本事業に関して、過去に受けた又は現在受けている「表彰」「補助金」「認定」などの公的支援等】

平成 29 年度創造的新技术研究開発計画認定

平成 30 年度神奈川工業技術開発大賞受賞

(3) KISTEC 又は産業技術センターおよび KAST (神奈川科学技術アカデミー) の利用状況

KISTEC 又は産業技術センター、KAST の利用状況 (技術相談・依頼試験・受託研究、担当職員名等) について書いて下さい。ない場合は、「なし」と書いて下さい。

令和元年 10 月から、KISTEC 機械・材料技術部 主任研究員 ○○○○さんから、××××に係る技術指導を継続的に受けている。

3 技術開発内容

(1) 技術開発の必要性 及び 開発しようとする技術・製品の概要と新規性・優位性

- ① (自社製品も含めて) 既存の技術・製品の現況と問題点、開発の動機・必要性などを記載して下さい。
- ② 開発しようとする技術・製品の概要 (仕様も含めて) を記載して下さい。
- ③ 新規性、あるいは、新しい要素技術の付加による従来技術の改良点等についてアピールして下さい。
- ④ 競合する技術・製品に対する技術的優位性 (他の技術では容易に実現できない長所や、他社が容易に真似できない点等) についてアピールして下さい。
- ⑤ 当該技術に関して、現在までに登録・出願している特許等の知的財産がある場合は、その概要と番号を記載して下さい。

具体的な数値データを用いて記載して下さい。

【(自社製品も含めて) 既存の技術・製品の現況と問題点、技術開発の動機・必要性について】

- ・ 当社は○○技術を得意とし、○○商品、××部品等の設計から製造まで手掛けてきた。
- ・ 最近、○○分野で活用されるようになってきた△△商品について***といった問題があるため、###に着目し、当社の技術が応用できないか研究を進めることとした。
- ・ 当社の独自技術の応用が問題解決に対応可能と捉え、事業化を進めるものである。

【開発しようとする技術・製品の概要 (仕様も含めて)】

- ・ 当社の独自技術である*****を応用し、×××××を完成させる。
- ・ 想定される新製品の概要は、別紙資料のとおりである。

【新規性、あるいは、従来技術に対する改良点】

- ・ 新製品が機能として持つ技術上の新規性は○○○○○○○○にある。

【競合する技術・製品に対する技術的優位性】

・競合する技術・製品は、××××製「*****」であるが、当社製は△△△△の点で差別化されており、優位性を充分有している。

【当該技術に関して、現在までに登録・出願している特許等の知的財産と概要】

- ・特許番号 特許××××『 』
- ・実用新案 実案××××『 』
- ・特許申請中 特開××××『 』

(2) 開発の具体的内容

①この事業に応募する前までの開発の現況、又は、基礎となる実験・研究、②開発の到達目標値(目指す性能)、③目標に対する具体的な技術的課題、④解決のために予定している実施方法を、明確に記載して下さい。特に1年で自社が開発する内容、ならびに到達目標値を達成するために利用する当所の依頼試験等の内容をしっかり記載してください。

具体的な数値データを用いて記載して下さい。

【現在までの開発の現況、到達目標値(目指す性能)】

- ・KISTEC 機械・材料技術部 主任研究員 ○○○○さんの協力で、開発は××××まで進んでいる。
- ・1年後(00 年 00 月)には*****、2年後(00 年 00 月)には△△△△△△△△まで、事業化を図ることを目指している。

【技術的課題、解決のための予定実施方法、開発の日程等】

- ・技術的課題の解決策としては○○○○を予定しており、××××をもって予定通り開発が進むものと予定している。

【開発のために利用する当所の依頼試験、機器使用等の内容(その理由)】

- ・開発のために必要な△△△△試験、□□□□機器の使用を KISTEC にお願ひする予定であり、担当職員と効率的・効果的に進めていく。
- ・お願ひする依頼試験、機器使用等に関しては、KISTEC に必要な設備が整っており、担当職員の技術指導と合わせて活用させていただく予定である。

4 事業化計画

- ①市場の現況・成長性と事業内容の適時性、および、開発製品のもつ優位性（価格・開発コスト、営業力・資金力、デザイン・ラインナップの特色等）についてアピールして下さい。
- ②事業化に向けた生産体制、営業計画（販売体制、商品価格、売上予測等）について、計画内容を記載して下さい
- ③この支援決定後3ヶ年の事業実施計画を記載して下さい。

【市場の現況・成長性と事業内容の適時性、開発しようとする技術・製品の優位性】

- ・市場の現況については、〇〇〇〇と見込んでいる。
- ・そこで、こうした現状ニーズに対応できる商品として、××××を有する今回の開発製品を市場へ提供する。
- ・競合品も存在するが、価格、開発コスト、機能、商品デザインなどに優位性を持つ予定である。

	価格	開発コスト	営業力	機能	デザイン	ラインナップ
当社	○	○	—	○	○	—
競合	—	—	○	—	—	○

【事業化戦略 生産体制・営業計画（販売体制、想定ユーザー、商品価格、売上予測等）】

- ・予想売上高の根拠は次のとおり。 〇〇〇〇〇 @000 千円 × 000 =5,000 千円
 - ・上記売上を達成するための戦略、生産体制、販売体制、想定ユーザーは次のとおり。
- (事業化戦略) * * * * *
- (生産体制) * * * * *
- (販売体制) * * * * *
- (想定ユーザー) * * * * *

(様式 1)

【支援決定後 3 ヶ年の事業実施計画】

年度	四半期	事業実施計画（内容）	事業実施段階
R7	1・四	◎◎◎◎に係る技術研究	基礎研究
	2・四	◎◎◎◎に係る技術研究	基礎研究
	3・四	◎◎◎◎に係る技術研究	基礎研究
	4・四	◎◎◎◎に係る技術研究	基礎研究
R8	1・四	◎◎◎◎に係る技術研究	技術開発
	2・四	◎◎◎◎に係る技術研究	技術開発
	3・四	試作品開発	応用開発
	4・四	試作品開発	応用開発
R9	1・四	試作品実験（テストマーケティング）・改良	応用開発
	2・四	試作品改良 販促計画	製品化
	3・四	試作品改良 販促計画	製品化
	4・四	商品完了 販売促進	製品化

* 事業実施段階欄には、「基礎研究」「技術開発」「応用開発」「製品化」「商品化」の各段階から記入願います。

* 必ず(様式1－別表)を添付してください。